

第5回向日市中学校給食検討委員会 会議録

日 時	平成28年3月24日（木）午後3時～5時
場 所	向日市文化資料館 研修室
出席委員	大谷委員長、藤井副委員長、縄手委員、富田委員、寺井委員、長坂委員、西森委員、森崎委員、西山委員、宮前委員、岩野委員、野田委員、今西委員
事務局	永野教育長、吉田学校教育課長、小畑学校教育課担当課長、奥村学校教育課担当課長、楠堂学校教育課主査、浦元教育総務課長
内 容	1 中学校給食検討委員会の報告について 2 その他
傍 聴 者	8名
委員長	開会  ○会議の成立  ○傍聴者入場  ○内容1 中学校給食検討委員会の報告について
委員長	本日の議題は、お手元の次第のとおり、中学校給食検討委員会の報告についてです。昨年9月に第1回の会議を開催して以来4回の会議を開催した。中学校の昼食の在り方、中学校給食の実施方式について協議をしてきた。 前回第4回会議では、兄弟方式による実施が最適であるが、不可能な場合には、自校方式と親子方式を併用した方式が適当である。センター方式も選択肢として残しておくという内容を取りまとめた。 本日は、4回の協議内容を事務局でまとめてもらって報告書案を作成してもらっているの、それに沿って協議を進めていきたい。 それでは、事務局から報告書案について、説明を願います。
事務局	報告書は大きく3つに分けて、「中学校の昼食の在り方についての検討」、「中学校給食の実施方式についての検討」、「まとめ」で構成している。また、資料については、これまで、検討委員会で配布した資料について、添付して報告書としたい。 まず、「はじめに」と、1番目の「中学生の昼食の在り方についての検討」

について説明し、その後委員のみなさまからご意見をいただきたい。

委員長

ただ今の説明について、意見はないか。

意見などがあれば、答えていただくように進めていきたい。

では、「はじめに」と「中学校の昼食の在り方についての検討」をお願いします。

事務局

それでは、「はじめに」から読み上げるので、意見をいただきたい。

はじめに、向日市では、中学校の昼食は、弁当を介して家庭のきずなを深めることができることや、成長期にある中学生の体格や活動量、嗜好など個人差に対応できることから、家庭の手づくり弁当を基本としてきました。また、弁当を持参できない場合に補完するものとして、校内においてパンや牛乳などの販売を実施しています。

一方、国においては、平成17年に「食育基本法」が制定され、平成20年には、「学校給食法」が改正され、「学校給食を活用した食に関する指導の実施」という目的が加わるなど、学校給食が果たす役割は大きくなってきています。

また、近年、社会経済構造の変化、国民の価値観の多様化などを背景に、偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや、肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化するとともに、子どもの貧困対策が課題となっています。このため、適切な栄養摂取による健康の保持増進を図るとともに、日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、望ましい食習慣を養うことがますます重要になっています。

さらに、全国の公立中学校における完全給食実施率は、増加傾向にあり、平成25年度現在、86%の状況となっています。

このような状況を踏まえ、向日市教育委員会では「中学校の昼食の在り方」「中学校給食の方式及び導入」「昼食に関するアンケート調査」などに関する事項を検討するため、「向日市中学校給食検討委員会」を設置されました。

本検討委員会では、中学校給食を実施している先進地の視察を行い、また、児童・生徒、保護者、教職員を対象とした中学校の昼食に関するアンケート調査結果を参考に、中学校の昼食の在り方及び給食の実施方式について、様々な角度から比較・検討を重ねてきました。

ここに検討結果をとりまとめましたので、以下のとおり報告します。

次のページをご覧ください。

## 1 中学校の昼食の在り方についての検討

第1回、第2回の検討委員会では、給食の実施について、「偏食のある子どもは、弁当が良いと言うし、小学校のような給食であれば、給食を食べたいとの声もあり、様々な意見がある」「中学生では、食べる量に個人差が激しくなり、給食の量が心配」「食缶方式だと、配膳に時間がかかり、昼食時

間の変更や放課後の部活動の時間に影響が出るのではないか」「弁当を持ってこれない子どもがいるのであれば、一番恵まれない環境にある子どもを救うという視点が大事である」などの意見がありました。

また、アンケート調査の対象や内容について検討を行いました。

第3回の検討委員会では、教育委員会の実施した中学校の昼食に関するアンケート調査結果及び自校方式、親子方式、センター方式、デリバリー方式の各方式ごとに実施した先進地視察を踏まえ、向日市にとって、どのような昼食の在り方が最もふさわしいかを検討しました。

#### (1) 中学校の昼食に関するアンケート調査（抜粋）

検討委員会では、教育委員会が、平成27年11月に実施した「中学校の昼食に関するアンケート調査」のうち、主に「中学校で希望する昼食の形態」「中学校給食に期待すること」の2項目を参考にして、昼食の在り方について検討しました。その概要は、以下のとおりです。

この表は、主なものについて、下にあるように上位2項目について記載しています。

ページをめくっていただいて4ページ、ここでは、主な意見ということで、検討いただいた意見を要約して載せている。

#### (2) 中学校の昼食の在り方についての主な意見

- 児童・生徒で「選択できる昼食」が一番多かったのが意外であった。理由欄のその他記入内容を見ると、「弁当を作れない日や忘れた日に便利だから」と、直前に選ぶことができるイメージで回答しているのではないか。
- 「選択できる昼食」が子どもたちに多いのは、明日このおかずなら給食にしようとして自由に選択できると思っているようだが、方法論としてそんなことはできないと思う。
- 「弁当給食」と「選択できる昼食」を選んだ児童・生徒の思いは、アンケートの理由を見ると「めんどうだから」という意見が多い。「家庭の弁当」が良い理由では、「自分の好きなものや食べる量を調節できるから」が多い。中学校へ行くと、お弁当で給食当番もなく楽ができると思っている子が多いかと思う。
- 家庭の貧困問題もある。小学生で、給食をおかわりしてたくさん食べる子に、理由を聞くと、朝食を食べておらず、夕食もあまり食べていないからだという。他市の状況から選択制の昼食の場合、理由を詮索されるので頼まない、友達が頼まないと頼まないなど、実際、選択制を実施している市町では、注文数が少ないと聞いている。給食を必要としている生徒も給食を選択できないことになってしまう。貧困対策と食育の推進から、同じ環境を作ることが重要であり、全員同じ給食提供が必要と考える。
- 選択制の昼食は、同じ教室内で弁当を食べる生徒と給食を食べる生徒がいた場合、仲良く食べられるのか。食育の観点から、同じものを食べ

ることに給食の意味があると考え。選択制の昼食は、給食の意義からはずれ、単なる昼食提供になり、本来の食育のねらいが全うできないと思う。同じものを食べることで、苦手なものが食べられたり、話題が共通になるなど全員と一緒に食べることが大事である。

- 生徒の「家庭の弁当」が良い理由は、「弁当の方が好きだから」、「その日の体調に合わせて量の調節ができるから」、「自分の好きな物を入れてもらえるから」、「給食当番をしなくてもいいから」などの意見が多かった。将来の骨粗しょう症予防で骨密度を上げなくてはならないなど、発達段階の重要な時期に、栄養バランスが期待されているが、きちっとした食事、食事量を学ばせることが家庭科の中だけではできていない。実際に給食を通して学ぶことも大事だと思う。
- 児童・生徒で「家庭の弁当」を希望する意見が多かったが、家庭の弁当の内容に差があるので、そのことも考えることが大事だと思う。給食の意味を学びながら同じものを一緒に食べることが大切である。
- 保護者では、小学校のような給食を希望する意見が多く、弁当を作ることが負担だと感じている。
- 中学生の保護者の3割以上が「選択できる昼食」を含め、弁当を作ってもいいと思っているので、例えば、弁当の日があったら、弁当を通じてのコミュニケーションがとれるのではないかと思う。
- 自分の子どもはみんなお弁当が良いと言う。給食は小学校のもので、中学校は弁当というイメージがある。お弁当が良いというのは作ってきた方としては嬉しい。
- 視察先の先生から、給食が導入されて、学校へ来られるようになった生徒がいることや、毎日パンだけ持ってきていた生徒が数人いて、そういった生徒に給食は重要という話を聞いたのが印象に残っている。
- 給食に期待するものに温かい給食が一番多いので、弁当給食だとおかずに冷たいものになる。望まれているのが、温かい給食なので、弁当給食は適していない。
- 視察先で気になったのは、担任や副担任が給食の配膳時間に連絡事項をされていて、先生の給食時間が短かった。先生の負担が大きくなる可能性があると思った。
- 配膳に時間がかかると予想していたが、視察に行ったら思った以上に配膳が早くできていた。視察先からの説明でも、配膳時間の課題について話されていたが、慣れると小学校の時よりも早くできるようになることや食事時間も早いと聞いた。配膳や片付けにそれほどの時間はかからない印象を受けた。

検討委員会の委員の意見をこのようにまとめている。これを受けて、中学校の昼食の在り方としても検討結果として、3つ目でまとめている。

### (3) 検討結果

アンケート調査結果の「中学校で希望する昼食の形態」を見ると、児童・

生徒は、「選択できる昼食」が約4割と最も多く、保護者では、「小学校のような給食」が過半数を占め、中学校の教職員では、「家庭の弁当」が約6割と、三者の意見が分かれる結果となりました。

しかし、「小学校のような給食」「弁当給食」「選択できる昼食」を合わせると、児童・生徒の6割強、保護者の9割以上、中学校の教職員の4割弱が何らかの給食を希望しています。

一方、「家庭の弁当」の希望者を見ると、児童・生徒は3割を超え、「選択できる昼食」と合わせると、7割を超えています。保護者では、小学生の保護者が3%、中学生の保護者が9.2%と少ないですが、「選択できる昼食」を含めると、それぞれ2割強、4割弱を占めています。

また、「中学校給食に期待すること」では、主に「栄養バランスの良さ」「温かい昼食」「食の安全性の確保」が挙げられており、中学校の教職員では、「経済的に困難な家庭の支援」についても期待されています。

以上のように、アンケート調査結果では、児童・生徒の希望は、「選択できる昼食」が最多でしたが、検討委員会では、アンケート調査の選択理由や視察結果も踏まえ、幅広く意見交換を行いました。

上述(2)の主な意見にあるように、「選択できる昼食」では、「理由が詮索されるから頼まない、友達が頼まないから頼まないといった理由から給食を必要としている生徒も給食を選択できないことが危惧される」、「中学生は将来の骨粗しょう症の予防などで、栄養バランスが期待されている」、また、食育の観点からも「給食の意味を学びながら同じものを一緒に食べることが大事である」などの意見が出されました。

このように、心身の発達の著しい中学生という時期における栄養摂取の重要性や、給食を活用した食育の意義、また子どもの貧困対策などに鑑み、本市における「中学校の昼食の在り方」としては、中学校給食を実施し、全員が同じものを食べる「全員喫食」を基本とすべきと考えます。さらに、児童・生徒、保護者とも、アンケート調査で、中学校給食に期待することに「温かい昼食」を主な理由としていることから、「弁当給食」ではなく、温かい昼食を提供できる「食缶方式」により実施すべきと考えます。

なお、「家庭の弁当」の希望者の状況から、中学校給食の実施にあたっては、「家庭の弁当」について配慮することも望まれます。

以上が1番目の報告のまとめになります。

委員長

もともと事務局は、ポイントだけを説明する予定でしたが、全部読んでもらうようお願いした。内容と同時に、文章のおかしいところなど、ご意見をよろしくお願ひしたい。

中学校の昼食の在り方についての意見は、そのままでなく簡略化されている。例えば、3つ目の○のところ、いきなり、「めんどうだから」とあるが、何が面倒か一言入れてもらったほうがわかりやすい。

6ページの下から8行目、「栄養バランスが期待されている」は、「中学生

	<p>は」ではなく「中学生の食事には、栄養のバランスが期待されている」だと思ふ。</p> <p>下から3行目からの、「中学校給食を実施し、全員が同じものを食べる「全員喫食」を基本とすべきと考えます。」は、結論なので、括弧をされるか、太字で強調される方が良いと思ふ。同じように7ページの「温かい昼食を提供できる「食缶方式」により実施すべき」も、太字で強調される方が良いと思ふ。</p>
委員	<p>4ページの2つ目の○で、「思う」とあるが誰が思っているのか、わからない。</p>
事務局	<p>検討委員会の中の委員の発言なので、主語は委員になる。</p>
委員	<p>初見の方が、見てもわからないのではないか。</p>
委員	<p>標題の(2)中学校の昼食の在り方についてのところに、「委員の」を書いておけばわかると思ふ。</p>
委員	<p>5ページの下から2つ目の○で、視察先で気になったのは、「短かった」ではなく、「短かったこと」ではないか。</p>
委員長	<p>5ページの下から4つ目の○で、「生徒に給食は重要で」とあるが、重要という言葉が気になる。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、大切なものとか必要なものというニュアンスであったと思ふ。</p>
委員長	<p>見ていただいて、他に意見があれば後からでも発言いただいて、次に進めたいと思ふ。「中学校給食の実施方法についての検討」について、説明いただきたい。</p>
事務局	<p>2番の「中学校給食の実施方式についての検討」について、説明させていただく。前段では、第4回の検討委員会の検討内容について書いているので読み上げる。</p> <p>第4回の検討委員会では、自校方式、親子方式、センター方式、兄弟方式における「費用目安」や本市における「用途制限」等を踏まえ、向日市にとって最も望ましい実施方式について検討を行いました。</p> <p>その中で、事務局から、自校方式では、3中学校のうち2校について、学校敷地内に給食施設の用地を確保することが困難であること、親子方式では、6小学校のうち親となり得る小学校は2校であること、また、自校方式</p>

以外の方式では、給食施設の建設に当たって、関係法令による建築物の制限があり、京都府との協議が必要であることの説明がありました。

このことを踏まえながら、さらに検討を重ねました。

続いて、(1)として「実施方式についての主な意見」を読み上げます

- コストについては、自校方式の費用が高いと思っていたので、他の方式と変わらないことに驚いた。センター方式は、3校分作るのに、スケールメリットもあり、ランニングコストも安く抑えられると思っていたが、自校方式と比べ、配送費用が必要になるためか、高くなっている。費用に大きな差がないなら、食育の面からも、配送がなく、給食の調理から提供までの時間が短いという面からも、自校方式が良い。
- 理想は自校方式だと思う。調理員さんの調理している姿を見ることによって感謝の気持ちも違ってくると思う。
- 自校方式で、自分の学校に調理員さんがいて、調理中のおいおいを実際に感じる体験は貴重な食育である。
- 2つの中学校において、敷地の問題から自校方式が困難であるのならば、1校だけ自校方式で実施するよりは、3つの中学校が同じ条件である方式が良いと思う。
- 自校方式が良いと思うが、3校それぞれの自校方式が無理ならば、センター方式が、小学校に負担がかからず良いと思う。親子方式の場合、用途地域等の関係から、親となり得る小学校は、2小学校以外は困難であるため、3中学校を1対1で実施することはできず、親子方式は1対1の2校ですか、1対2の組み合わせしかない。そうすると小学校は今の3倍の給食を作ることになるので、給食室の増築が必要になり、今まで児童が使っていた学校施設が使えなくなるので、小学校の親子方式は避けていただき、学校外に給食センターを建てて欲しい。
- 小学校と中学校では、家庭訪問や修学旅行など教育活動に違いがあり、給食を食べる日も異なってくるので、親子方式だと、今より小学校の負担が増えるため、センター方式が良いと思っている。
- 向日市の小学校給食は、自校方式で各校に栄養教諭や栄養士を配置し、それぞれで献立の管理や、食に関する指導に取り組んでいる。また、学校で収穫した野菜を献立に取り入れたり、学年別のバイキングを行ったりと色々な取り組みを各学校で行っている。親子方式であっても、中学校で給食のない日に、小学校独自の取り組みをするなど、工夫はできる。
- 親子方式で実施する場合でも、規模が小さい方が衛生管理や個別対応がしやすいので、できれば小学校1校で中学校1校分を調理する組み合わせが良い。
- 敷地の問題から、自校方式が1校しかできず、食に関する指導を統一した方が良いのであれば、センター方式しかないと思う。親子方式は、行事のことや衛生面、食物アレルギー対応等のことを考えると、難しい

こともあるので、同じ献立で、同時に出せるセンター方式で、兄弟方式が一番良い。

- 1つの中学校で3中学校分調理する兄弟方式の実施が難しいとしても、センター方式で、中学校専用の安心安全な給食を作してほしい。
- 小学校のことを考えると、外にセンターを作ってもらうのがベストだと思うが、結果として無理な場合、中学校1校は自校方式で他の2校は親子方式が考えられる。小学校に迷惑というのではなく、中学生に温かい給食を提供することが大きなことなので、なんらか影響がでるのは協力し、譲り合うことも必要だと思う。
- できるだけ早期に実施してほしい。検討した結果、3中学校の実施方式が異なったり、同時期に実施できなくてもそれはそれでよい。
- センター方式の用地取得にかかる時間の目途がたたないとしても、センター方式という選択肢を捨てないでほしい。

ここまでが、委員の意見で、これらを踏まえ検討結果をまとめさせてもらった。

## (2) 検討結果

中学校給食の実施方式については、①調理から喫食までの時間がかからず、温かいものや冷たいものがそのまま提供できること、②食物アレルギーへのきめ細やかな対応が可能であること、③施設整備費や運営費などの費用がより安価であること、④献立や食育の取組などに学校の独自性が発揮しやすいこと、⑤既に実施している小学校給食に影響がないことなどから、理想としては自校方式だと考えます。

しかしながら、教育活動に大きな支障がなく給食施設が建設できるのは、1校のみであり、3中学校が揃って自校方式を実施することは困難です。

このため、親子方式、兄弟方式、センター方式の中から、①学校内に給食施設が建設できる敷地があり、新たな土地の購入費用が必要無いこと、②中学校分のみを調理することで、小学校給食の献立や食育の取組に影響しないこと、③施設整備費や運営費などの費用が、自校方式の次に安価であることなどから、1つの中学校で3中学校分の給食を調理できるセンター機能を持った給食施設を建設する兄弟方式が、最適だと考えます。

なお、兄弟方式では、学校敷地の面積や形状、既存校舎との位置関係などから、どのような規模の給食施設が建設できるか、専門的な調査が必要であり、また、法令上の制限について京都府との協議が必要となります。

親子方式においても、同様に専門的な調査や、法令上の制限について京都府との協議が必要です。

さらに、センター方式は、工業系地域において、建設用地を確保する必要があり、その費用や用地取得に要する期間が不確定であることから、早期の実施は難しいと判断されます。

以上、2番の「中学校給食の実施方式についての検討」について、読み上げた。



委員長	では、「中学校給食の実施方式についての検討」について、意見があればお願いしたい。
委員長	9ページの1つ目の○の文末が、「思っている」になっているが、他は「思う」なので、思うが良いと思う。
委員	実施方式について、アンケートでは細かい説明があったが、兄弟方式というのが、検討委員会の中で始めて出てきた言葉だと思うので、詳しい説明を記載した方が丁寧だと思う。
委員	検討結果で、兄弟方式が最適となっているが、主な意見の中に兄弟方式が良いという意見が、9ページの4つ目の○の文末にしか、出てこないのも、もう少し意見が必要だと思うし、「センター方式で、兄弟方式」の意味がわかりにくい。
事務局	委員の主な意見ということで、できるだけ発言に近い形で記載させてもらっている。事務局でも指摘の点については検討が必要と考えており、もう少し詳しく説明したい。センター方式と兄弟方式は、費用目安の表で同じ項目で並べていたので、学校敷地に建てるのが兄弟方式で、外の敷地に建てるのがセンター方式で説明したが、この文章については、もう少し検討したい。
委員長	<p>自校方式、親子方式、センター方式、兄弟方式について、言葉の説明を最初にしておいたら、わかりやすいと思う。</p> <p>8ページの上から2行目に、いきなり「用途制限」とあるが、「土地の用途制限」と書いた方がわかりやすい。</p>
委員長	9ページの下から2つ目の○、「なんらか影響がでるのは協力し」は「なんらか影響がでるのはやむをえないが、協力し」とした方が文章としてわかりやすいと思う。
委員長	<p>「大きなこと」も、「大きな目的」の方が良いと思う。</p> <p>検討結果では、10ページの真ん中より下に、この委員会の結論として「1つの中学校で3中学校分の給食を調理できるセンター機能を持った給食施設を建設する兄弟方式が、最適だと考えます。」を考えているなら、わかりやすく明示した方が良いと思う。</p> <p>他になれば、3番の「まとめ」をお願いしたい。</p>
事務局	<p>3番の「まとめ」として、検討いただいた「給食の提供方法・形態」と「実施方式」について、簡潔にまとめている。</p> <p>検討委員会では、成長期にある中学生が、栄養バランスのとれた食事を摂</p>

取ることの重要性や、給食を活用した食育を推進すること、また、子どもの貧困問題への対応などから、中学校給食は実施すべきである、との結論に達しました。

給食の提供方法・形態については、全員が同じメニューを食べる「全員喫食」を基本とし、温かい給食を温かいまま提供できる「食缶方式」により実施すべきと考えます。

また、実施方式については、1中学校にセンター機能を持った給食施設を建設する「兄弟方式」が最適であります。この方式が不可能な場合には、自校方式と親子方式を併用した方式が、適当であると考えます。

このほか、学校外に給食施設を建設するセンター方式についても選択肢の1つとして考慮いただきたいと考えます。

なお、中学校給食の実施にあたっては、以下の点に配慮することを望みます。

(1) 小学校給食における食物アレルギーの対応は、児童の個別な事情に応じたきめ細やかな対応が実施されており、中学校給食においても同様に、生徒の個別な事情に応じたきめ細やかに対応すること。

(2) 配膳・後片付けの時間の確保や、給食指導などの学校運営上の課題については、教育委員会が主体となって、学校現場と連携しながら、教職員の負担軽減と不安の解消に向けて適切な方策を講じること。

(3) 保護者が子どもの弁当を作ることは、親子のコミュニケーションが図れ、きずなを深めることができる意義あるものであるとともに、アンケート調査の「家庭の弁当」の希望者の状況から、給食の実施後も、「家庭の弁当」について配慮すること。以上です。

委員長

真ん中あたりの、以下の点に配慮することは配慮されることを望むことか。(1)の「アレルギーの対応」は、「アレルギーについて」にしないと、「対応」という言葉が重なっている。

委員

まとめの1行目、「成長期のある中学生が、中学校給食は実施すべきである」なので、「中学生には、」の方が文章として繋がると思う。

委員

(1)の文末で、「応じた」を「応じて」の方がよい。

委員

まとめの最後、「家庭の弁当について配慮すること」は、どのように配慮するのか。

事務局

「家庭の弁当についての配慮」ですが、検討の中では例えば、弁当の日の意見があった。実際に給食が始まって中学校の意見を参考にしたいが、ここでは、具体的な方策は明記できない。

委員長	いい表現法があれば、提案いただきたい。
委員	「家庭の弁当についての配慮も、検討する必要があること」という表現はどうか。
委員	<p>お弁当が子どもとの接点であると聞くので、どういうことができるか、配慮する方法を検討する。</p> <p>「まとめ」の3段落目の、「また、実施方法については」で「不可能な場合は」を何が不可能か、その理由を付け加えた方が良いのかと思う。また、「自校方式と親子方式を併用すること」も、自校方式が1校で、他が親子方式など、もう少し詳しく書いた方が、読む方がわかりやすいのではないかと思う。</p>
事務局	「不可能な場合は」については、面積的などということもあるが、途中で出てきたように「京都府との協議が必要になる」ということもある。
委員	「中学校給食の実施方法について」の前段の検討結果で、理由を書きおろし、重複するというので、まとめの方ではわざと抜いている。
委員	<p>10ページの検討結果の2段落目、「しかしながら」のところで、検討委員会で判断したのではないので、「1校のみであり」ではなく、「1校のみであることから」という表現にした方が良いと思う。</p> <p>9ページの2つ目○で、向日市の小学校給食の取組を書きもらっているが、親子方式も工夫できると書きもらっているが、親子方式の制約についても明記し、配慮なり工夫がいることも書きもらえればと思う。</p>
委員	この意見は私の意見で、自校方式でとの願いを持って、小学校での取り組みを発言したが、他市では親子方式で実施されているので、自校方式しかできないということではないという意見であった。
委員	親子方式の課題について、前回出ていたと思うが、それを意見として書いて残した方が良いと思う。
委員	親子方式は視察に行っていないが、課題があるのかという話題になった時に、課題があるわけではないという意味での意見で、食数は少ない方が細やかな対応ができるなどはあるが、親子方式でも工夫をしながらできるという発言をさせてもらった。
委員長	意見は出していただいたか。細かい点は事務局と私で、責任を持って原稿を直させていただくことで、ご了承いただけるか。

	<p>報告書は委員長が責任を持って報告させていただくので、よろしくお願ひしたい。その他の議題はどうか。</p>
事務局	<p>いただいた意見を最初から確認させていただきたい。 1 ページから 3 ページは修正無し。 4 ページ (2) 標題を「中学校の昼食の在り方についての委員の主な意見」上から 3 つ目の○の、「めんどうだから」を、「給食当番が」を入れる。</p>
委員	<p>生徒のアンケートに、「弁当を毎日持つていくのが面倒だから」もあるので、両方入れた方がいいと思う。</p>
事務局	<p>それでは、2 種類の「めんどうだから」の理由を記載させていただきたい。 5 ページ、下から 4 つめの○の最後、「そういった生徒に給食は重要」を、「必要」と指摘いただいた。</p>
委員	<p>視察の時のメモによれば、校長先生から「非常に大きい」と聞いた。</p>
事務局	<p>表現については、もう少し検討したい。 下から 2 つ目の○、「先生の給食時間が短かった。」を「短かったこと。」に修正する。 6 ページ下から 8 行目、「中学生は将来の」を「中学生の食事には」に修正する。 下から 2 行目の「考えます。」の文章は、結論なので、表示を検討する。 7 ページの上から 2 行目の「考えます。」も同様。 8 ページ上から 2 行目、「用途制限」の前に、「土地の」を入れる。 ここで、自校方式、親子方式、センター方式、兄弟方式について、中味の説明を入れたいと思う。 (1) 実施方式についての委員の主な意見と、「委員の」を入れる。 9 ページ 1 つ目の○の最後、「センター方式が良いと思っている。」を、「思う。」に修正する。 上から 4 つ目の○、「同じ献立で、同時に出せるセンター方式で、兄弟方式」をわかりやすい表現に変える。</p>
委員長	<p>次のページで、センター機能を持った兄弟方式と表現されている。</p>
事務局	<p>「同じ献立で、同時に出せるセンター機能を持った、兄弟方式が一番良い。」に修正する。 下から 2 つ目の○、「給食を提供することが大きなことなので」を、「大きな目的なので」に修正する。それから、「なんらかの影響がでるのは協力し」を、「なんらかの影響がでるのはやむを得ないが、協力し」に修正する。</p>

	<p>10ページ(2) 検討結果のしかしながらの段落で、「1校のみであり、3中学校が揃って」を、「1校のみであることから、3中学が揃って」に修正する。</p> <p>「兄弟方式が、最適だと考えます。」の文章を明示する。</p> <p>11ページのまとめの1行目、「成長期にある中学生が、」を、「中学生には、」に修正する。</p> <p>なお、の行で、「以下の点に配慮することを」を、「以下の点に配慮されることを」に修正する。</p> <p>(1) 「小学校給食における食物アレルギーの対応は、」を、「食物アレルギーについては、」に修正する。その後、「生徒の個別な事情に応じてきめ細やかに対応すること。」を、「生徒の事情にきめ細やかに対応すること。」に修正する。</p> <p>最後に、(3)の「配慮することの表現」は、「配慮について検討する」で良いか。</p>
委員長	<p>事務局から修正について、説明をいただいたが、それ以外は大丈夫か。</p>
	<p>それでは、中学校給食検討委員会の報告については、これで良いか。その他はどうか。</p>
事務局	<p>今確認した修正箇所については、事務局で大谷委員長と相談をさせていただいて、修正し、最終の報告書としたいと思うので、よろしく願います。</p>
委員長	<p>終わりにあたり、他市の中学校の検討委員会に参加させていただいていたが、向日市の検討委員会は9月にスタートして、短期間にうまくまとめられたと感心している。意見もたくさん出していただいて、委員長冥利につきます。事務局と相談して、報告書を提出するので、よろしく願います。ありがとうございました。</p>
	<p>閉会</p>